



## 2021年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年1月12日

上場会社名 株式会社 井筒屋

上場取引所 東 福

コード番号 8260 URL <http://www.izutsuya.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 影山 英雄

問合せ先責任者 (役職名) 経理・財務部長 (氏名) 細迫 有文

TEL 093-522-3414

四半期報告書提出予定日 2021年1月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年2月期第3四半期の連結業績(2020年3月1日～2020年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第3四半期	36,252	25.7	410		561		380	
2020年2月期第3四半期	48,805	13.6	669	80.6	563		367	

(注) 包括利益 2021年2月期第3四半期 374百万円 ( %) 2020年2月期第3四半期 400百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第3四半期	33.19	
2020年2月期第3四半期	32.07	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年2月期第3四半期	49,933	7,739	15.5	675.51
2020年2月期	50,339	8,113	16.1	708.21

(参考) 自己資本 2021年2月期第3四半期 7,739百万円 2020年2月期 8,113百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期				0.00	0.00
2021年2月期					
2021年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年2月期の連結業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,000	24.4	300		700		600		52.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 有 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年2月期3Q	11,480,495 株	2020年2月期	11,480,495 株
期末自己株式数	2021年2月期3Q	23,536 株	2020年2月期	23,438 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年2月期3Q	11,457,020 株	2020年2月期3Q	11,457,130 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を及ぼす可能性のある重要な要因は、当社グループを取り巻く商圏動向、公的規制、自然災害・事故、金利の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計上の見積りの変更)	9
(追加情報)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2020年3月1日～2020年11月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、緊急事態宣言が発出され、経済活動も大幅に制限されるなど、景気は急速に悪化いたしました。

緊急事態宣言解除後は、社会・経済活動が段階的に再開され、徐々に持ち直しの動きが見えはじめましたが、更なる感染症の拡大が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

百貨店業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休業や営業時間の短縮をはじめ、大型催事の中止など営業機会の縮小による入店客数の大幅な減少や、インバウンド需要の激減などにより、全国的に前年実績を大幅に下回る厳しい商況となりました。

こうした状況の中、当社グループにおきましては、お客様に安心・安全にお買物をしていただける環境を整えることを最優先に努めてまいりました。

新型コロナウイルス感染症防止対策といたしましては、従業員のマスク着用、検温、アルコール消毒を徹底するとともに、本店では、各入店口でのサーモグラフィによる検温、マスク着用チェックをはじめ、手指消毒の促進や従業員による店舗設備の定期消毒、飛沫防止シールドの設置などをおこなっております。

本店におきましては、10月からオンラインでのリモート接客を一部のショップやイベントで開始いたしました。Zoomを利用して、商品のご提案やご相談を承ることができ、お客様に大変喜ばれております。

また、開催を見合わせておりました京都展や北海道物産展などの大型催事を可能な限りの感染症防止対策をおこないながら、9月より徐々に再開いたしました。

さらに、「井筒屋にぎわい商品券」をはじめ、北海道物産展で使用できる「どさんこ商品券」など、還元率の高いプレミアム商品券の発行・販売は、消費喚起を促す一助となりました。

お歳暮ギフトでは、地元北九州市の産品を送料無料でお届けする新企画「北九州市 地元の逸品事業～贈ってふるさと自慢～」を行政機関とタイアップし、実施いたしました。

山口店におきましても、感染防止対策をおこないながら、9月より大京都展や北海道物産展を開催し、ご好評をいただきました。

また、還元率が高い「エール！山口プレミアム共通商品券」の発行や、11月には地域おこしの一環として山口商工会議所主催の「チョコレートフェスタ」を開催し、お客様には大変ご好評をいただきました。

サテライトショップにおきましては、9月1日にイオンタウン黒崎内に、黒崎店後継店舗として、食品や雑貨、衣料品等を取り揃えた「イオンタウン黒崎ショップ」をオープンいたしました。百貨店ならではのギフト提案を中心に商品を取り揃え、友の会や中元・歳暮のお手続きにもご利用いただくことができるショップとなっております。ご好評をいただいております。

今後も各店舗の運営体制効率化等による収益改善を図るとともに、お客様の利便性向上に努めてまいります。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う4月9日から5月15日までの37日間にわたる臨時休業や、営業時間の短縮に加え、8月17日をもって営業を終了いたしました黒崎店の業績が影響し、売上高は36,252百万円（前年同期比74.3%）、営業損失は410百万円（前年同期は669百万円の営業利益）、経常損失は561百万円（前年同期は563百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は380百万円（前年同期は367百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

当社グループの売上高は、第3四半期以降の直近では、高額商品や家中関連需要である食料品やリビング用品等の伸長がみられ、回復の兆しをみせております。

引き続き当社グループは、お客様に安心してお買い物いただける店舗運営に努めつつ、高品質な商品と販売・サービスをご提供し、百貨店らしさを追求してまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて406百万円減少し、49,933百万円となりました。これは主に有形固定資産の建物及び構築物等が減少したことによるものであります。

負債については前連結会計年度末に比べて31百万円減少し、42,193百万円となりました。これは主に前受金が増加したものの長期借入金が増加したことによるものであります。純資産は、主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少のため前連結会計年度末に比べて374百万円減少し、7,739百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年2月期の業績予想につきましては、2020年10月12日公表の通期業績予想から変更はありません。

(注)上記の業績予想は、この資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,151	3,984
受取手形及び売掛金	1,663	2,425
商品	2,433	2,513
貯蔵品	20	16
その他	569	647
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	8,839	9,588
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,587	11,647
土地	24,011	24,011
その他（純額）	782	642
有形固定資産合計	37,380	36,301
無形固定資産	251	247
投資その他の資産		
差入保証金	2,143	2,052
その他	1,929	1,807
貸倒引当金	△205	△64
投資その他の資産合計	3,868	3,795
固定資産合計	41,500	40,344
資産合計	50,339	49,933

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,045	5,221
短期借入金	11,333	11,833
未払法人税等	126	32
前受金	7,396	8,368
その他の引当金	276	329
資産除去債務	—	8
その他	3,502	3,191
流動負債合計	27,682	28,985
固定負債		
長期借入金	9,177	8,177
再評価に係る繰延税金負債	2,874	2,874
商品券回収損失引当金	792	835
退職給付に係る負債	947	857
資産除去債務	191	165
その他	559	297
固定負債合計	14,543	13,207
負債合計	42,225	42,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,532	10,532
資本剰余金	11,904	11,904
利益剰余金	△20,061	△20,442
自己株式	△27	△27
株主資本合計	2,347	1,966
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14	10
土地再評価差額金	5,766	5,766
退職給付に係る調整累計額	△14	△4
その他の包括利益累計額合計	5,766	5,772
純資産合計	8,113	7,739
負債純資産合計	50,339	49,933



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
売上高	48,805	36,252
売上原価	37,447	27,943
売上総利益	11,357	8,308
販売費及び一般管理費	10,687	8,719
営業利益又は営業損失(△)	669	△410
営業外収益		
受取利息	4	0
持分法による投資利益	106	57
固定資産受贈益	126	—
協賛金収入	107	4
未回収商品券受入益	220	236
受取賃貸料	50	48
助成金収入	—	180
その他	164	76
営業外収益合計	781	603
営業外費用		
支払利息	306	288
売上割引	295	231
商品券回収損失引当金繰入額	145	154
地代家賃	5	—
その他	134	78
営業外費用合計	887	754
経常利益又は経常損失(△)	563	△561
特別利益		
固定資産売却益	28	—
資産除去債務戻入益	51	—
特別利益合計	80	—
特別損失		
投資有価証券評価損	—	2
固定資産除却損	188	0
特別損失合計	188	2
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	454	△564
法人税、住民税及び事業税	35	51
法人税等調整額	51	△235
法人税等合計	87	△183
四半期純利益又は四半期純損失(△)	367	△380
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	367	△380

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	367	△380
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1	△3
退職給付に係る調整額	40	9
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	△0
その他の包括利益合計	33	5
四半期包括利益	400	△374
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	400	△374
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

- (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項  
(継続企業の前提に関する注記)  
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)  
該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)  
(耐用年数の変更)

当社は、本店の一部ショップを改装することに伴い、利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、取り壊し予定日までの期間で減価償却が完了するように耐用年数を変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失および税金等調整前四半期純損失はそれぞれ67百万円増加しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、わが国においても緊急事態宣言が発令され、当社の事業活動に大きな影響を及ぼしております。今後も当社グループの業績に影響が及ぶことが想定されますが、新型コロナウイルス感染症拡大の収束時期は不透明な状況であります。

当社グループでは、固定資産の減損及び税効果会計等におきまして、当該業績への影響が当初2021年2月末ごろまで続くものと仮定しておりましたが、収束時期が未だ不透明な状況にあることから、その影響が2022年2月末ごろまで続くとの仮定に変更し、将来キャッシュ・フロー及び繰延税金資産の回収可能性等の見積りを行っております。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による影響は不確定要素が多く、当連結会計年度の当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。